

精神保健福祉士の養成の在り方等に関する検討会

(第1回)

議 事 次 第

1. 日時 平成19年12月19日(水) 10:00~12:00
2. 場所 経済産業省別館1012号会議室
千代田区霞ヶ関1丁目3番1号
3. 議事
 - ① 精神保健福祉士の養成の在り方等について
 - ② その他

【配布資料】

- 資料1 精神保健福祉士の養成の在り方等に関する検討会開催要綱
資料2 精神保健福祉士の養成の在り方等に関する検討会構成員名簿
資料3 精神保健福祉士の養成の在り方等に関する検討会の設置について
資料4 精神保健福祉士の現状について
資料5 精神保健福祉士と社会福祉士の共通科目について
参考資料

- 1 精神保健福祉士養成施設等における授業科目の目標及び内容
- 2 精神保健福祉士国家試験出題基準・合格基準
- 3 (案) 社会福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて

精神保健福祉士の養成の在り方等に関する検討会開催要綱

1 趣旨

近年、障害者自立支援法、医療観察法及び自殺対策基本法の施行をはじめ精神保健医療福祉施策を取り巻く環境は大きく変化しており、精神保健福祉士に求められる社会的役割は変化している状況にある。このような状況を踏まえ、精神保健福祉士の高い専門性を担保できるような養成及び人材育成の在り方について検討を行う。

2 検討事項

- (1) 教育カリキュラム
- (2) 実習の在り方
- (3) その他

3 構成等

- (1) 検討会は上記検討事項に関連する学識経験者等のうちから、社会・援護局障害保健福祉部長が参集を求める者をもって構成する。
- (2) 検討会に座長をおき、検討メンバーの互選によってこれを定める。座長は検討会の会務を総理する。

4 検討会

- (1) 検討会は座長が必要に応じて招集するものとする。
- (2) 座長は必要に応じて意見を聴取するため、参考人を招へいすることができる。
- (3) 必要に応じてワーキンググループを設置することができる。

5 その他

検討会の庶務は社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課が行う。

精神保健福祉士の養成の在り方等に関する検討会構成員名簿

氏名	所属・役職
石川 到覚	大正大学人間学部人間福祉学科 教授
大塚 淳子	社団法人日本精神保健福祉士協会 常務理事
鹿島 晴雄	慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 教授
京極 高宣	国立社会保障・人口問題研究所 所長
新保 祐元	東京成徳大学人文学部 教授
谷野 亮爾	社団法人日本精神科病院協会 副会長
寺谷 隆子	山梨県立大学人間福祉学部 教授
古川 孝順	東洋大学ライフデザイン学部 学部長

※ 五十音順

精神保健福祉士の養成の在り方等に関する検討会の設置について

趣 旨

○ 精神保健福祉士制度については、平成10年4月に施行された制度であるが、制度が施行されてから精神保健医療福祉施策を取り巻く環境が大きく変化している。

ex.)障害者自立支援法、医療観察法、自殺対策基本法の成立など

○ また、精神保健福祉士が担うべき社会的な役割が拡大する状況を踏まえ、精神保健福祉士の高い専門性を担保できるような養成及び人材育成の在り方を検討する必要性が生じているとの指摘もある。

(平成18年12月8日「精神保健福祉士のあり方に関する検討について(お願い)」日本精神保健福祉士協会、日本精神保健福祉士養成校協会)

○ 本検討会においては、こうした精神保健福祉士を取り巻く環境の変化に対応した養成の在り方等について検討を行うこととする。

養成の在り方

○精神保健福祉士制度施行からの環境の変化を踏まえた教育カリキュラムの検討を行う。

○実習の在り方を中心として、教員や実習指導者の要件、実習施設の基準とともに、国家試験の在り方、実務経験の範囲、精神保健福祉士の自己研鑽の在り方、卒後研修の在り方等についても、検討事項とする。

※1 社会福祉士の教育内容の見直しについても視野に入れた検討を行う。

※2 また、7回に渡り実施した「精神保健福祉士制度の在り方に関する意見交換会」において、日本精神保健福祉士協会等より提案があった要望事項についても、検討の際に考慮に入れることとする。

① 教育カリキュラムの検討事項

- 職域における活躍を踏まえ、教育カリキュラム及び卒後教育の役割の整理
- 社会福祉士との共通科目の整理
- 保健福祉系大学等における指定科目及び基礎科目の範囲
- 一般養成施設の教育カリキュラムの編成(科目・時間数)
- 短期養成施設の教育カリキュラムの編成(科目・時間数)
- 各科目の教育目標及び教育内容とその示し方 等

② 実習の在り方の検討事項

- 目標及び教育内容、時間数
- 教員及び実習指導者の要件
- 実習施設の基準 等

③ その他の検討事項

- 施設整備の要件(必要な規制緩和や要件の弾力化)
- 国家試験の在り方
- 実務経験の範囲
- 自己研鑽の在り方及び職能団体等による卒後研修の在り方
- 業務対象、職域の範囲 等

検討の進め方(案)

精神保健福祉士の養成の在り方等に関する検討会

WG

平成19年12月
第1回

・精神保健福祉士の取り巻く環境の変化を踏まえた現状と全体としての在り方の検討

平成20年1月
第2回

・教育カリキュラムについての検討
(社会福祉士及び介護福祉士法改正を参考に共通科目を検討)

平成20年1月～2月 中間報告

→ 共通科目関係各省令、告示、通知改正作業

平成20年2月～

・保健福祉系大学等における指定科目及び基礎科目の検討
・一般養成施設及び短期養成施設における教育カリキュラムの編成 等

検討会と並行して作業

平成20年7月目途として 検討会報告書

精神保健福祉士の現状について

精神保健福祉士の概要

精神保健福祉士とは

精神保健福祉士は、精神保健福祉士法(平成9年法律第31号)に基づく名称独占の資格であり、精神保健福祉士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、精神科病院その他の医療施設において精神障害の医療を受け、又は精神障害者の社会復帰の促進を図ることを目的とする施設を利用している者の社会復帰に関する相談に応じ、助言、指導、日常生活への適応のために必要な訓練その他の援助を行うことを業とする者を言う。

精神保健福祉士試験の受験・合格状況、登録状況

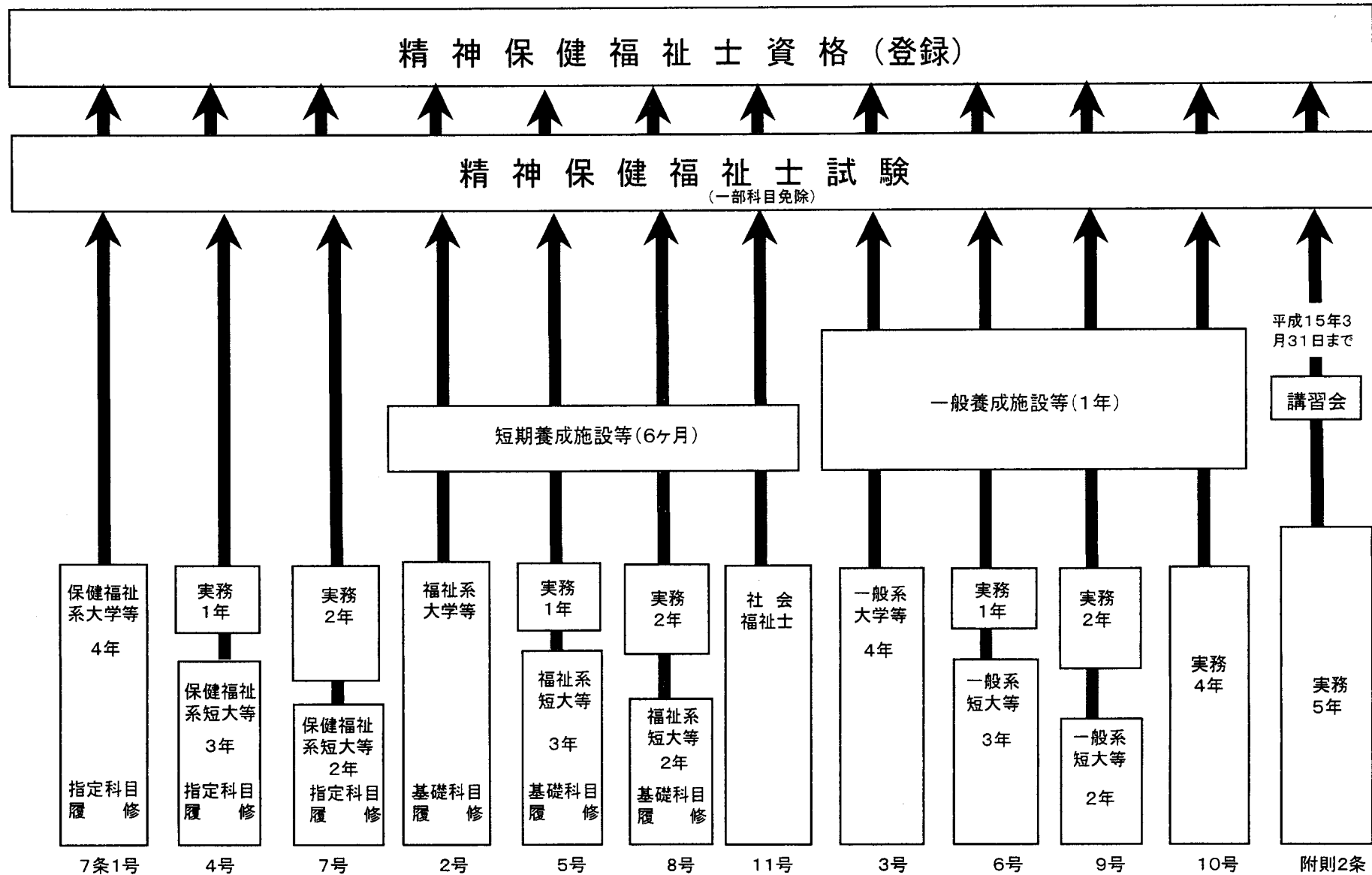
資格者の登録状況

30,326人(平成19年3月末現在)

	第1回 (10年度)	第2回 (11年度)	第3回 (12年度)	第4回 (13年度)	第5回 (14年度)	第6回 (15年度)	第7回 (16年度)	第8回 (17年度)	第9回 (18年度)	合計
受験者数(人)	4,866	3,535	4,282	5,480	9,039	5,831	6,711	7,289	7,434	54,467
合格者数(人)	4,338	2,586	2,704	3,415	5,799	3,589	4,111	4,470	4,482	35,494
合格率(%)	89.1	73.2	63.1	62.3	64.2	61.6	61.3	61.3	60.3	65.2
登録者数(人)	—	4,169	2,486	2,677	3,334	5,655	3,590	4,039	4,376	30,326

精神保健福祉士の概要 (2)

資格取得方法



資格取得方法別受験者数及び合格者数

区分		保健福祉系大学		保健福祉系 短大3年 +実務1年		保健福祉系 短大2年 +実務2年		短期養成施設		一般養成施設		講習会		合計		
法7条		1号		4号		7号		2,5,8,11号		3,6,9,10号		法附則2条				
回	年度	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	合格率
1	10	74	70	0	0	0	0	14	13	172	161	4,606	4,094	4,866	4,338	89.1%
2	11	233	190	0	0	0	0	90	82	529	479	2,683	1,835	3,535	2,586	73.2%
3	12	634	426	0	0	0	0	106	79	696	574	2,846	1,625	4,282	2,704	63.1%
4	13	970	601	91	24	13	5	355	298	855	657	3,196	1,830	5,480	3,415	62.3%
5	14	1,478	891	405	130	33	10	570	502	1,713	1,307	4,840	2,959	9,039	5,799	64.2%
6	15	2,119	1,105	536	126	77	29	1,005	867	2,094	1,462	-	-	5,831	3,589	61.6%
7	16	2,457	1,300	657	172	97	28	1,134	974	2,366	1,637	-	-	6,711	4,111	61.3%
8	17	2,768	1,405	691	208	73	26	1,317	1,174	2,440	1,657	-	-	7,289	4,470	61.3%
合計		10,733	5,988	2,380	660	293	98	4,591	3,989	10,865	7,934	18,171	12,343	47,033	31,012	65.9%
比率		22.8%	19.3%	5.1%	2.1%	0.6%	0.3%	9.8%	12.9%	23.1%	25.6%	38.6%	39.8%	100.0%	100.0%	
合格率		55.8%		27.7%		33.4%		86.9%		73.0%		67.9%				
		50.3%														

出典：(財)社会福祉振興・試験センター調べ

精神保健福祉士の現状(1)

○精神保健福祉士登録者数 【30,326人(平成19年3月末現在)】

<精神保健福祉士の配置状況(平成17年10月現在)>

○病院での従事者数 5,378人(1施設あたり0.6人)

〔 精神科病院 3,912人(3.6人)
一般病院 1,466人(0.2人)〕

出典:平成17年病院報告

○一般診療所での従事者数 1,058人(0.01人)

出典:平成17年医療施設(静態・動態)調査

○精神障害者社会復帰施設での従事者数 1,949人(1.2人)

〔 生活訓練施設※ 477人(1.7人)
福祉ホーム 128人(0.5人)
入所授産施設※ 30人(1.0人)
通所授産施設※ 339人(1.2人)
小規模通所授産施設 220人(0.6人)
福祉工場 19人(1.1人)
地域生活支援センター※ 735人(1.6人)〕

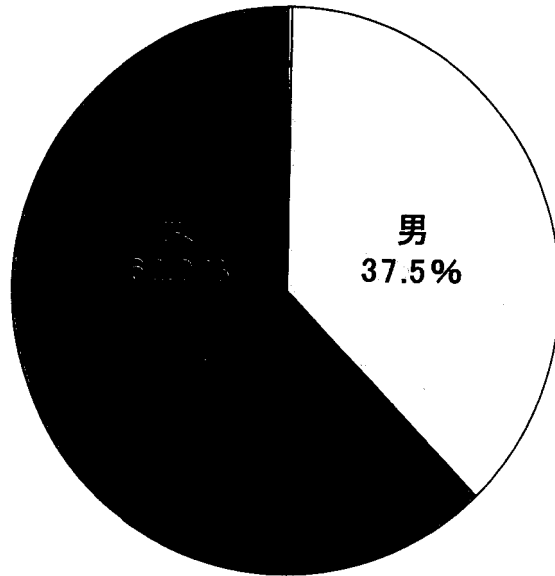
○その他の社会福祉施設等での従事者数 100人

出典:平成17年社会福祉施設等調査

※は、施設基準において、精神保健福祉士が必置とされているもの。

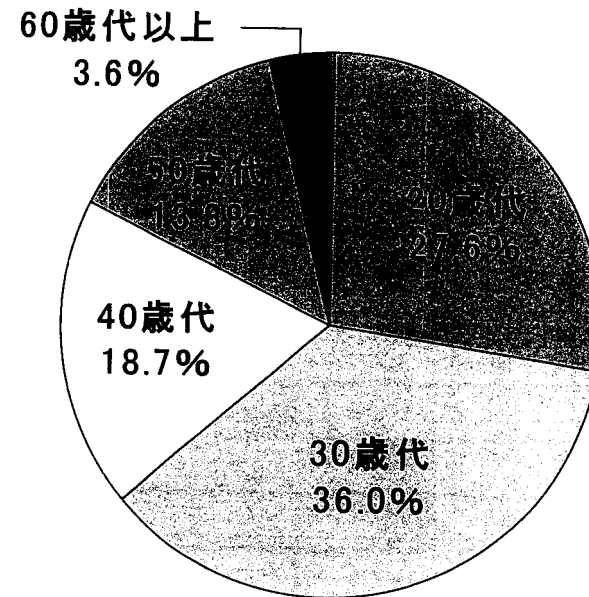
精神保健福祉士の現状(2)

性別



n = 3,054

年齢階級



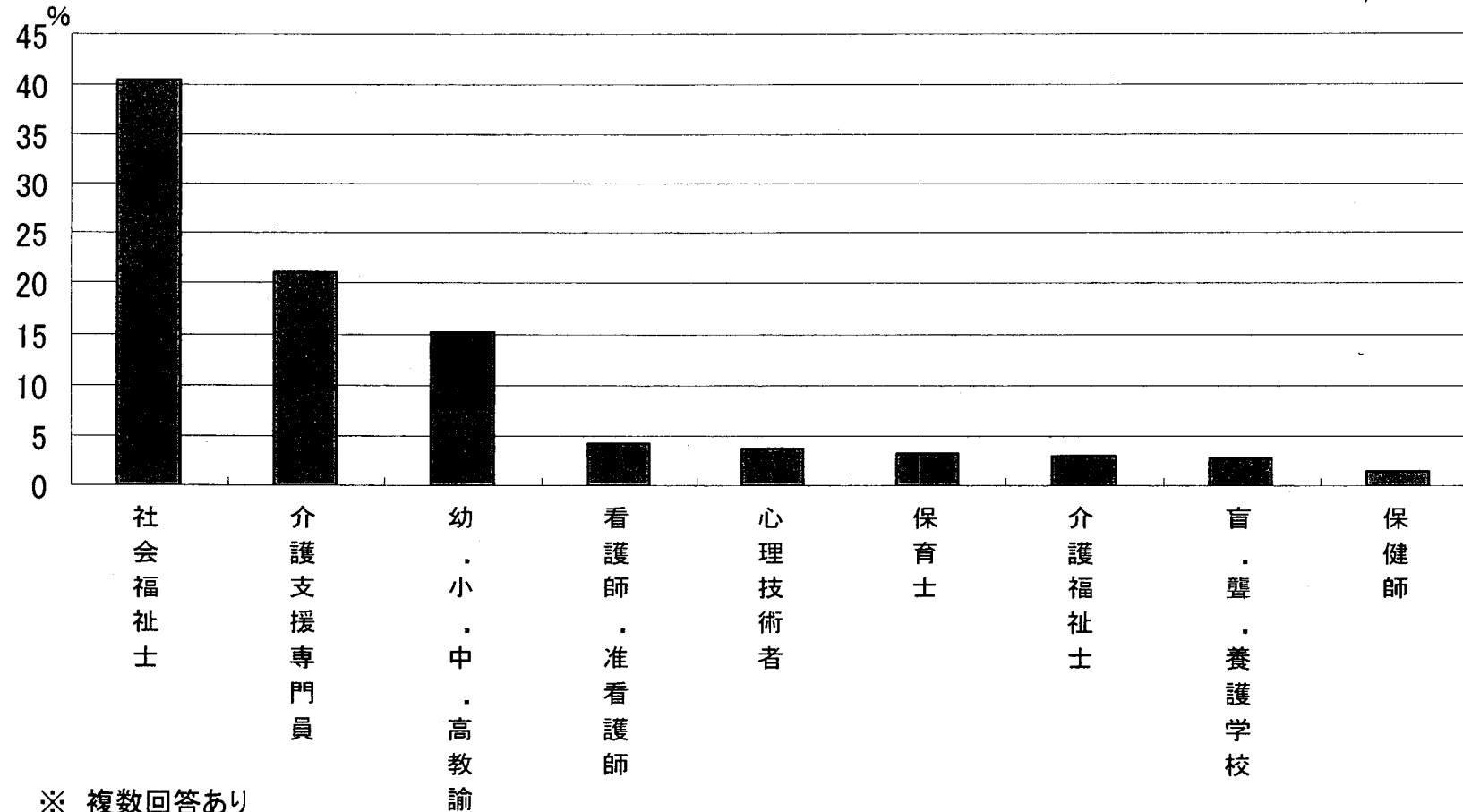
n = 3,054

出典: 2006年度構成員実態調査結果(社団法人日本精神保健福祉士協会)

精神保健福祉士の現状(3)

精神保健福祉士が有する他の資格・免許

n = 3,054




出典：2006年度構成員実態調査結果(社団法人日本精神保健福祉士協会)

精神保健福祉士と社会福祉士の 共通科目について

現行精神保健福祉士養成施設養成課程等と試験科目

精神保健福祉士 養成施設養成課程	時間数	法第7条第1号 (指定科目)	法第7条第2号 (基礎科目)	精神保健福祉士試験科目
社会福祉原論	60	社会福祉原論	社会福祉原論	社会福祉原論
社会保障論	60	} 左の科目のうち1科目	} 左の科目のうち1科目	社会保障論
公的扶助論	30			公的扶助論
地域福祉論	30			地域福祉論
心理学	30			心理学
社会学	30	} 左の科目のうちの1科目	} 左の科目のうち1科目	社会学
法学	30			法学
医学一般	60			医学一般
精神医学	60	精神医学	—	精神医学
精神保健学	60	精神保健学	—	精神保健学
精神科リハビリテーション学	60	精神科リハビリテーション学	—	精神科リハビリテーション学
精神保健福祉論	90	精神保健福祉論	—	精神保健福祉論
精神保健福祉援助技術総論	60	精神保健福祉援助技術総論	精神保健福祉援助技術総論	精神保健福祉援助技術
精神保健福祉援助技術各論	60	精神保健福祉援助技術各論	—	
精神保健福祉援助演習	60	精神保健福祉援助演習	—	—
精神保健福祉援助実習	270	精神保健福祉援助実習	—	—
合計(16科目)	1,050	時間数(単位数)及び シラバスの規定なし	時間数(単位数)及び シラバスの規定なし	・13科目 ・出題数150問 ・試験時間240時間
下段は短期養成課程の時間数	660			

※  は社会福祉士との共通科目

共通科目とその設定の考え方

概要

- 社会福祉士と現行の試験科目及び指定科目(養成課程上の科目)において共通した科目。
- 社会福祉士有資格者(または、精神保健福祉士有資格者)については、精神保健福祉士(または、社会福祉士)における試験科目において、共通科目における試験科目免除及び、指定科目における共通科目の履修免除が認められている。
- なお、試験科目における共通科目については、同じ問題が使われている。

共通科目を設定する基本的考え方

社会福祉士と精神保健福祉士については、その政策目的が異なることから別法によって資格を定めているが、①両者ともケースワークやグループワークといったソーシャルワーク技法を用いて相談援助を行うこと、②両資格とも社会福祉原論や地域福祉論といった社会福祉制度等に関する基礎的な知識を必要とすること等その専門性において共通の基盤を有することから、可能な範囲で共通科目を設定し、試験及び履修の免除を認めることで、両資格に求められる知識・技術に係る水準の同一性を担保している。

士士法の改正を踏まえたカリキュラムの見直しの進め方について

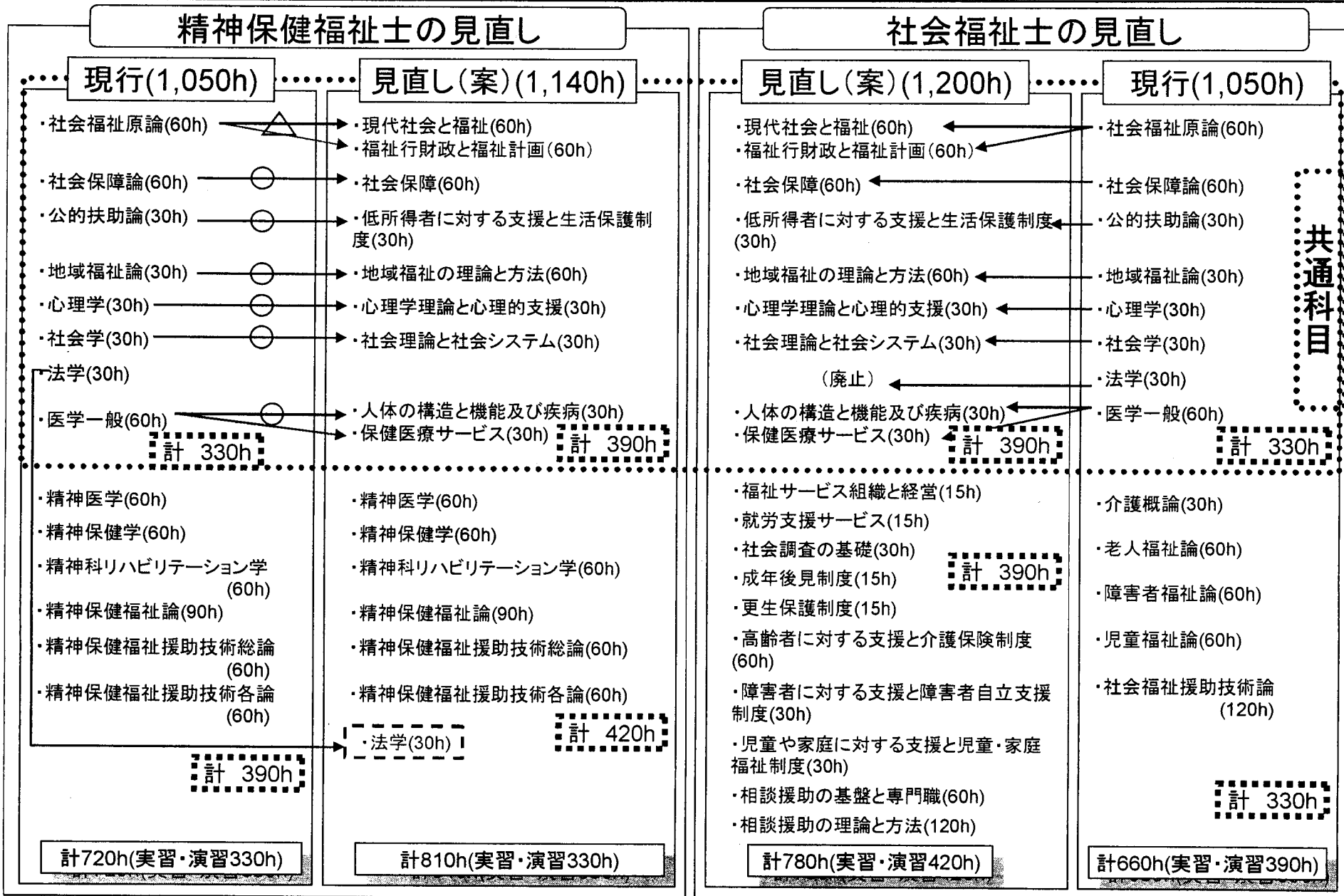
背景

- 両資格を取り巻く環境の変化に違いはあるものの、社会福祉制度等に関する基礎的な知識を必要とすること等その専門性において共通する基盤があり、両資格に求められる知識・技術に係る水準の同一性を担保する必要があることから、精神保健福祉士の養成の在り方の見直しに当たっては、共通科目制度を維持することが妥当であると考えられる。
- また、社会福祉士のカリキュラムの変更に伴い、共通科目が維持できなくなった場合に以下のような問題が考えられることから、共通科目制度を維持する必要がある。
 - ①受験者の負担増(両資格を取得しようとした場合、同一の科目を2度履修及び受験しなければならない。)
 - ②養成校の運営上の負担増(教員・教材の確保、受講生離れ等)

検討の進め方

- 1 共通科目制度を維持することを前提に、社会福祉士のカリキュラムの変更に伴う現行の共通科目に相当する科目を共通科目として位置づけることについての妥当性を先行して検討する。
- 2 次の段階として、
 - ①上記以外の科目について、さらに共通科目として位置づけるかどうかの検討、(共通科目の範囲をどこまでとするのかという検討)
 - ②共通科目以外の科目の内容に係る検討については、精神保健福祉士としての従来の役割に加え、今後担うべき役割等を踏まえ、養成の在り方全般の議論の中で検討を行うこととする。

精神保健福祉士のカリキュラムと社会福祉士におけるカリキュラムの見直し(共通科目関係)



※ 矢印上にある印のうち、○印は共通科目として位置づけることが妥当である科目。△印は条件付きで共通科目として位置づけることが必要な科目。

精神保健福祉士の共通科目の見直しについて

社会福祉原論(現行)

目標

- 1 現代社会における社会福祉の理念と意義について理解させる。
- 2 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について、老人や障害者を中心に介護との関係に十分留意させつつ理解させる。
- 3 社会福祉サービス体系の概要について理解させる。
- 4 社会福祉の専門職と倫理について理解させる。
- 5 社会福祉関係職種の内容について理解させる。
- 6 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解させる。
- 7 社会福祉を巡る我が国及び諸外国の動向について理解させる。

内容

- 1 現代社会と社会福祉
 - 1) 社会福祉理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会福祉対象の把握方法
- 3 社会福祉援助の具体的な形態の方法
- 4 社会福祉援助活動における専門性と倫理
 - 1) 精神保健福祉士法の意義と内容
 - 2) 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容
 - 3) 社会福祉専門職及び機能専門職の専門性と内容
 - 4) 保健・医療等関連分野の専門職と連携のあり方
 - 5) 社会福祉援助活動と倫理
- 5 社会事業法・福祉六法及び関連法規の内容及び関係
 - 1) 福祉関係法制と実施体制及び財政の概要
 - 2) 社会福祉の実施体制
 - 3) 社会福祉の財政と費用負担
 - 4) 介護保険と社会福祉の関係
- 6 社会福祉を巡る我が国及び諸外国の動向

現代社会と福祉(見直し案)

ねらい

- ・ 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- ・ 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。
- ・ 福祉政策の課題について理解する。
- ・ 福祉政策の構成要素(福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。)について理解する。
- ・ 福祉政策と関連政策(教育政策、住宅政策、労働政策を含む。)の関係について理解する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

含まれるべき事項

- ① 現代社会における福祉制度と福祉政策
- ② 福祉制度の発達過程
- ③ 福祉政策におけるニーズと資源
- ④ 福祉政策の課題
- ⑤ 福祉政策の構成要素
- ⑥ 福祉政策と関連政策
- ⑦ 相談援助活動と福祉政策の関係

福祉行財政と福祉計画(見直し案)

ねらい

- ・ 福祉の行財政について理解する。
- ・ 福祉計画の意義や目的、方法、留意点について理解する。

含まれるべき事項

- ① 福祉行政の実施体制
- ② 福祉の財源
- ③ 福祉行政の組織及び団体の役割
- ④ 福祉行政における専門職の役割
- ⑤ 福祉行財政の動向
- ⑥ 福祉計画の意義と目的
- ⑦ 福祉計画の主体と方法
- ⑧ 福祉計画の実際

社会福祉士の見直しにおいては、「相談援助の基盤と専門職」の新科目を設定
 現行の非共通科目「精神保健福祉技術援助論」において整理を検討

精神保健福祉士の共通科目の見直しについて

社会保障論(現行)	
目標	
1 現代社会における社会保障の理念と意義について理解させる。 2 社会保障制度の体系について理解させる。 3 社会保障の各制度の概要について理解させる。 4 我が国の年金保険について熟知させる。 5 我が国の医療保険について熟知させる。 6 我が国の介護保険について熟知させる。 7 我が国の民間保険の概要と公的施策との関係について理解させる。 8 社会保障の実施体制及び専門性について理解させる。	
内容	
1 現代社会と社会保障	
1) 社会保障理念の発達	
2) 概念と範囲	
3) 役割と意義	
2 社会保障制度の体系	
3 社会保障を構成する各制度の目的、対象、給付内容及び財源の概要	
1) 年金保険	
2) 医療保険	
3) 労災保険	
4) 失業保険(雇用保険)	
5) 家族手当(児童手当)	
6) 公的扶助	
7) その他関連制度	
4 我が国の年金保険制度とその具体的内容	
1) 国民健康保険	
2) 健康保険	
3) 各種共済組合の医療保険	

社会保障(見直し案)	
ねらい	
・ 現代社会における社会保障制度の課題(少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。)について理解する。 ・ 社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。 ・ 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。 ・ 社会保障制度の体系と概要について理解する。 ・ 年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。 ・ 諸外国における社会保障制度の概要について理解する。	
含まれるべき事項	
① 現代社会における社会保障制度の課題(少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。)	
② 社会保障の概念や対象及びその理念	
③ 社会保障の財源と費用	
④ 社会保険と社会扶助の関係	
⑤ 公的保険制度と民間保険制度の関係	
⑥ 社会保障制度の体系	
⑦ 年金保険制度の具体的内容	
⑧ 医療保険制度の具体的内容	
⑨ 諸外国における社会保障制度の概要	

精神保健福祉士の共通科目の見直しについて

公的扶助論(現行)	低所得者に対する支援と生活保護制度(見直し案)
<p style="text-align: center;">目標</p> <p>1 現代社会における公的扶助の理念の意義について理解させる。 2 生活保護のしくみと近年の動向について理解させる。 3 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方について理解させる。</p>	<p style="text-align: center;">ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。 ・ 生活保護制度について理解する。 ・ 自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。 ・ 生活保護制度に係る他の法制度(民法、労働法、住宅政策、低所得対策、ホームレス対策を含む。)について理解する。
<p style="text-align: center;">内容</p> <p>1 現代社会と公的扶助 1) 公的扶助理念の発達 2) 概念と範囲 3) 役割と意義</p> <p>2 低所得問題対策の概要</p> <p>3 生活保護制度のしくみ 1) 目的 2) 基本原理 3) 保護の原則 4) 保護の種類と内容 5) 保護の機関と実施体制及び財源 6) 保護施設の種類 7) 被保護者の権利及び義務</p> <p>4 生活保護の最近の動向</p> <p>5 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方 1) 組織・専門職 2) 連携のあり方</p>	<p style="text-align: center;">含まれるべき事項</p> <p>①低所得層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際</p> <p>②生活保護制度</p> <p>③生活保護制度における組織及び団体の役割と実際</p> <p>④生活保護制度における専門職の役割と実際</p> <p>⑤生活保護制度における他職種連携、ネットワーキングと実際</p> <p>⑥福祉事務所の役割と実際</p> <p>⑦自立支援プログラムの意義と実際</p> <p>⑧低所得者対策</p> <p>⑨低所得者へ住宅政策</p> <p>⑩ホームレス対策</p>

精神保健福祉士の共通科目の見直しについて

地域福祉論(現行)	地域福祉の理論と方法(見直し案)
<p style="text-align: center;">目標</p> <p>1 地域福祉に理念と内容について理解させる。 2 地域福祉の推進方法について理解させる。 3 地域福祉の現状について理解させる。</p>	<p style="text-align: center;">ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉の基本的な考え方(人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。)について理解する。 ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。 ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。 ・ 地域福祉におけるネットワーキング(他職種・他機関との連携を含む。)の意義と方法及びその実際について理解する。 ・ 地域福祉の推進方法(ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法とサービスの評価方法を含む。)について理解する。
<p style="text-align: center;">内容</p> <p>1 現代社会におけるコミュニティと地域福祉 2 現代社会と地域福祉 1) 地域福祉理念の発達 2) 概念と範囲 3) 役割と意義 3 地域福祉の構成 4 地域福祉の推進方法 1) 推進の基本的な考え方 2) 公私関係及び役割分担 3) サービス提供組織 4) マンパワーの構成及びその動員方法 5) 財源の構成とその調達の方法 6) 地域福祉推進の具体的な組織、団体、専門職及びその連携のあり方 5 地域福祉の現状</p>	<p style="text-align: center;">含まれるべき事項</p> <p>①地域福祉の基本的な考え方 ②地域福祉の主体と対象 ③地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民 ④地域福祉の推進方法</p>

精神保健福祉士の共通科目の見直しについて

心理学(現行)	心理学理論と心理的支援(見直し案)
<p style="text-align: center;">目標</p> <p>1 心理学の概要を理解させる。 2 乳幼児期・児童期・青年期・老年期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的・心理的特徴について理解させる。 3 心理学理論による人間理解とその技法の基礎について理解させる。 4 心理学的援助技術法の概要について理解させる。</p>	<p style="text-align: center;">ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。 ・ 人の成長・発達と心理との関係について理解する。 ・ 日常生活と心の健康との関係について理解する。 ・ 心理的支援の概要について理解する。
<p style="text-align: center;">内容</p> <p>1 <u>人間の心理学的理解</u> 1) 欲求・動機づけと行動 2) 感情・情動 3) 感覚・知覚・認知 4) 学習・記憶・思考 5) 知能・創造性 6) 人格 7) 適応と適応以上</p> <p>2 <u>人間の成長・発達と心理</u></p> <p>3 <u>人間理解のための心理学理論と技法</u> 1) 基礎理論 ① 精神分析 ② 行動分析 2) 測定と診断 ① 発達 ② 知能 ③ 性格</p> <p>4 <u>心理学的援助技法の概要</u> 1) 心理療法(個別面接法・集団面接法) 2) 家族心理療法 3) 行動療法</p>	<p style="text-align: center;">含まれるべき事項</p> <p>① 人の心理学的理解</p> <p>② 人の成長・発達と心理</p> <p>③ 日常生活と心の健康</p> <p>④ 心理的支援の概要及びソーシャルワークとの概要</p>

精神保健福祉士の共通科目の見直しについて

社会学(現行)	社会理論と社会システム(見直し案)
目標	ねらい
1 現代社会の特質について理解させる。 2 現代社会における家族や地域社会の特徴について理解させる。 3 現代社会における社会問題について理解させる。	・ 社会理論による現代社会の捉え方を理解する。 ・ 生活構造について理解する。 ・ 人と社会の関係について理解する。 ・ 社会問題について理解する。
内容	含まれるべき事項
1 現代社会の変化と国民の生活及び意識の変化 2 現代社会の科学技術 1) 科学技術の展開 2) 現代社会と科学技術 3) 情報化社会と国民生活 3 現代社会と専門職 4 現代社会における家族 1) 機能及び形態 2) 機能 3) 変化 4) 家族と地域社会 5 現代社会における地域社会 1) 都市化と地域社会 2) 過疎化と地域社会 3) 地域社会の社会集団・組織 6 現代社会における社会問題	①現代社会の理解 ②生活構造の理解 ③人と社会の関係 ④社会問題の理解

精神保健福祉士の共通科目の見直しについて

医学一般(現行)	人体の構造と機能及び疾病(見直し案)
<p style="text-align: center;">目標</p> <p>1 人体の基本的な構造や機能について理解させる。 2 臨床医学の各分野の概要について理解させる。 3 医学的リハビリテーションの概要について理解させる。 4 現代社会の代表的な疾患について理解させる。 5 公衆衛生の概要について理解させる。 6 保健医療対策の概要について理解させる。 7 医事法制と保健・医療機関及び専門職について理解させる。</p>	<p style="text-align: center;">ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ・国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要について理解する。 ・リハビリテーションの概要について理解する。 <p style="text-align: center;">含まれるべき事項</p> <p>①人の成長・発達 ②心身機能と身体構造の概要 ③国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要 ④健康の捉え方 ⑤疾病と障害の概要 ⑥リハビリテーションの概要</p>
<p style="text-align: center;">内容</p> <p>1 人体の構造・機能 2 一般臨床医学(内科学、外科学、整形外科、精神・神経科学等)の概要 3 医学的リハビリテーションの概要 4 現代社会の疾病 1)がん、成人病 2)各種感染症 3)エイズ 4)精神・神経疾患 5)先天性疾患 6)難病 5 公衆衛生の現状 1)人口動態 2)疾病と受療状況 3)医療関係者 4)医療施設 6 保健医療対策の現状 7 医事法制と保健・医療機関及び専門職 1)医療法、医師法、保健師助産師看護師法等、医事法制の概要 2)保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方</p>	<p style="text-align: center;">保健医療サービス(見直し案)</p> <p style="text-align: center;">ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療保険制度(診療報酬に関する内容を含む。)の概要について理解する。 ・保健医療サービスの概要と保健医療サービスにおける他職種協働についての理解する。 <p style="text-align: center;">含まれるべき事項</p> <p>①医療保険制度 ②診療報酬制度 ③保健医療サービスの概要 ④保健医療サービスにおける専門職の役割と実際 ⑤保健医療サービス関係者との連携と実際</p>

第1回 精神保健福祉士の養成の在り方等に関する検討会

平成19年12月19日

参考資料

参 考 資 料

- 1 精神保健福祉士養成施設等における授業科目の目標及び内容
- 2 精神保健福祉士国家試験出題基準・合格基準
- 3 (案)社会福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて

第1回 精神保健福祉士の養成の在り方等に関する検討会

平成19年12月19日

参考資料1

精神保健福祉士養成施設等における
授業科目の目標及び内容

精神保健福祉士養成施設等における授業科目の目標及び内容

「精神医学」

[目標]

- 1 精神医学、精神医療の歴史を理解させる。
- 2 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解させる。
- 3 精神医学の概念について理解させる。
- 4 精神医学診断の基本的な方法について理解させる。
- 5 代表的な精神障害について理解させる。
- 6 治療の概要について理解させる。
- 7 病院精神医学および地域精神医学について理解させる。

[内容]

- 1 精神医学、精神医療の歴史
- 2 脳および神経の生理・解剖
- 3 精神医学の概念
 - 1) 精神医学の概念
 - 2) 精神障害の成因と分類
- 4 診断法
 - 1) 診断の手順と方法
 - 2) 精神症状と状態像
 - 3) 心理検査と身体的検査
- 5 代表的な精神障害
 - 1) 症状性を含む器質性精神障害（老人性認知症を含む）
 - 2) 精神作用物質使用による精神および行動の障害
 - 3) 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害
 - 4) 気分（感情）障害
 - 5) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
 - 6) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
 - 7) 成人の人格および行動の障害
 - 8) 精神遅滞
 - 9) 心理的発達の障害
- 10) 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害
 - 1) 神経系の疾患（てんかんを含む）
- 6 治療法
 - 1) 身体的療法
 - ①薬物療法とその副作用
 - ②電気ショック療法
 - 2) 精神療法
 - 3) 環境・社会療法
 - 4) 精神科リハビリテーション
- 7 病院精神医療および地域精神医療
 - 1) 病院精神医療（身体合併症医療、インフォームドコンセントを含む）
 - 2) 精神科救急医療（インフォームドコンセントを含む）
 - 3) 地域精神医療

「精神保健学」

[目標]

- 1 精神保健についての基本知識について理解させる。
- 2 ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。
- 3 精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解させる。
- 4 地域精神保健と地域保健について理解させる。
- 5 諸外国における精神保健の概要について理解させる。
- 6 関連法規および施設について理解させる。

[内容]

- 1 精神保健についての基本知識
 - 1) 精神保健の概要
 - 2) 精神保健の意義と課題
- 2 ライフサイクルにおける精神保健
 - 1) 胎児期および乳幼児期における精神保健
 - 2) 学童期における精神保健
 - 3) 思春期における精神保健
 - 4) 青年期における精神保健
 - 5) 成人期における精神保健
 - 6) 老年期における精神保健
- 3 精神保健における個別課題への取り組み
 - 1) 精神障害者対策
 - 2) 老人性認知症疾患対策
 - 3) アルコール関連問題対策
 - 4) 薬物乱用防止対策
 - 5) 思春期精神保健対策
 - 6) 地域精神保健対策
 - 7) ターミナルケアと精神保健
- 4 精神保健活動の実際
 - 1) 家庭における精神保健
 - 2) 学校における精神保健
 - 3) 職場における精神保健
 - 4) 地域における精神保健
- 5 地域精神保健と地域保健
 - 1) 地域精神保健施策の概要
 - 2) 地域保健施策の概要
 - 3) 関係法規
 - 4) 関連施策
- 6 諸外国における精神保健

「精神科リハビリテーション学」

[目標]

- 1 精神科リハビリテーションの概念について理解させる。
- 2 精神科リハビリテーションの構成について理解させる。
- 3 精神科リハビリテーションのプロセスと技術について理解させる。
- 4 精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解させる。
- 5 精神科リハビリテーションにおける連携について理解させる。

[内容]

- 1 精神科リハビリテーションの概念
 - 1) リハビリテーションの概念と歴史
 - 2) リハビリテーションの理念、意義と基本原則
 - 3) 精神科リハビリテーションの概念
 - 4) 精神科リハビリテーションの理念と意義
 - 5) 精神科リハビリテーションの基本原則と技法
 - 6) わが国及び諸外国の精神科リハビリテーションの現状
- 2 精神科リハビリテーションの構成
 - 1) 精神科リハビリテーションの対象
 - 2) 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割
 - 3) 精神科リハビリテーションに関わる専門職等との連携
 - 4) 精神科リハビリテーションの施設
 - ①病院リハビリテーション施設等
 - ②障害者自立支援法に規定する障害福祉サービスを行う事業所等及びその他の社会資源
 - ③精神保健福祉センター及び保健所
 - ④その他の協力機関、支援団体
 - 5) 精神科リハビリテーションの関連領域
- 3 精神科リハビリテーションのプロセス
 - 1) リハビリテーション計画
 - 2) アプローチの方法
 - ①病院におけるリハビリテーション
 - ②障害者自立支援法に規定する障害福祉サービスを行う事業所等及びその他の社会資源におけるリハビリテーション
 - ③地域におけるリハビリテーション
 - 3) 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション
- 4 医療機関におけるリハビリテーション
 - 1) 作業療法およびレクリエーション療法
 - 2) 集団精神療法
 - 3) 行動療法
 - 4) 認知行動療法（生活技能訓練を含む）
 - 5) 家族教育プログラム
 - 6) デイケアおよびナイトケア
 - 7) 精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導
- 5 精神保健福祉士が行うリハビリテーション
 - 1) 精神保健福祉士が関わる医学的リハビリテーション
 - ①集団精神療法における精神保健福祉士
 - ②生活技能訓練における精神保健福祉士
 - ③デイケアおよびナイトケアにおける精神保健福祉士

- ④訪問看護・指導における精神保健福祉士
- 2) 社会的リハビリテーション
 - ①日常生活への適応のための訓練
 - ②社会復帰のための相談・助言・指導
- 6 精神科リハビリテーションの総合化
 - 1) 地域リハビリテーション
 - ①地域ネットワーク
 - ②ケアマネジメント
 - ③地域生活支援事業と訪問援助
 - ④家族会および自助グループ
 - ⑤ボランティアの育成と活用
 - 2) 職業リハビリテーション
 - 3) 精神保健福祉施策と精神科リハビリテーション

「精神保健福祉論」

[目標]

- 1 障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解させる。
- 2 精神障害者の人権について理解させる。
- 3 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。
- 4 精神障害者に対する相談援助活動等を理解させる。
- 5 精神保健福祉法、障害者自立支援法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解させる。
- 6 精神保健福祉施策の概要について理解させる。
- 7 精神保健福祉の関連施策について理解させる。

[内容]

- 1 障害者福祉の理念と意義
 - 1) 障害者福祉の理念
 - ①障害者福祉の発達
 - ②ノーマライゼーション
 - ③リハビリテーション
 - ④生活の質（QOL）
 - ⑤生活支援
 - 2) 障害及び障害者
 - ①障害の概念
 - ②障害分類（国際障害分類を含む）
 - ③精神障害の特性
 - 3) 障害者福祉の基本施策
 - ①障害者基本法
 - ②障害者プラン
 - 4) 現代社会と精神障害者
 - ①精神障害者の概念
 - ②精神障害者と家族
 - ③精神障害者と地域社会
 - ④精神障害者のノーマライゼーション
- 2 精神障害者の人権
 - 1) 精神障害者の権利擁護
 - 2) 精神医療における権利擁護
 - 3) インフォームドコンセント
 - 4) 地域社会における精神障害者の人権
- 3 精神保健福祉士の理念と意義
 - 1) 精神保健福祉の歴史と理念
 - 2) 精神保健福祉士の意義
 - 3) 精神保健福祉士の対象
 - 4) 精神保健福祉士の専門性と倫理
- 4 精神障害者に対する相談援助活動
 - 1) 精神障害者を取りまく社会的障壁（バリアー）
 - 2) 精神障害者の主体性の尊重
 - 3) 相談援助活動の方法
 - ①医療施設における相談援助活動

- ②障害者自立支援法に規定する障害福祉サービスを行う施設等における相談援助活動
- ③地域社会における相談援助活動
- 4) 相談援助活動の事例
- 5 精神保健福祉法、障害者自立支援法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律
 - 1) 精神保健福祉法の意義と内容
 - 2) 障害者自立支援法の意義と内容
 - 3) 精神保健福祉士法の意義と内容
 - 4) 関連法について
- 6 精神保健福祉施策の概要
 - 1) 精神保健福祉に関する行政組織
 - 2) 精神保健福祉に係る公的負担制度（公費負担医療等）
 - 3) 精神保健福祉施策の課題
 - ①精神障害者福祉対策
 - ②社会復帰対策
 - 4) 精神保健福祉における社会資源
 - ①精神障害者保健福祉に関わる専門職との連携
 - ②社会資源
- 7 精神保健福祉の関連施策
 - 1) 雇用・就業（障害者雇用促進法等の概要を含む）
 - 2) 所得保障
 - 3) 経済負担の軽減
 - 4) 生活環境の改善

「社会福祉原論」

[目標]

- 1 現代社会における社会福祉の理念と意義について理解させる。
- 2 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について、老人や障害者を中心に介護との関係に十分留意させつつ理解させる。
- 3 社会福祉サービス体系の概要について理解させる。
- 4 社会福祉の専門性と倫理について理解させる。
- 5 社会福祉関係職種の内容について理解させる。
- 6 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解させる。
- 7 社会福祉を巡る我が国及び諸外国の動向について理解させる。

[内容]

- 1 現代社会と社会福祉
 - 1) 社会福祉理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会福祉対象の把握方法
- 3 社会福祉援助の具体的な形態と方法
- 4 社会福祉援助活動における専門性と倫理
 - 1) 精神保健福祉士法の意義と内容
 - 2) 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容
 - 3) 社会福祉専門職及び機能専門職の専門性と内容
 - 4) 保健・医療等関連分野の専門職との連携のあり方
 - 5) 社会福祉援助活動と倫理
- 5 社会福祉関係法制と実施体制及び財政の概要
 - 1) 社会福祉事業法・福祉六法及び関連法規の内容及び関係
 - 2) 社会福祉の実施体制
 - 3) 社会福祉の財政と費用負担
 - 4) 介護保険と社会福祉の関係
- 6 社会福祉を巡る我が国及び諸外国の動向

「社会保障論」

[目標]

- 1 現代社会における社会保障の理念と意義について理解させる。
- 2 社会保障制度の体系について理解させる。
- 3 社会保障の各制度の概要について理解させる。
- 4 我が国の年金保険について熟知させる。
- 5 我が国の医療保険について熟知させる。
- 6 我が国の介護保険について熟知させる。
- 7 我が国の民間保険の概要と公的施策との関係について理解させる。
- 8 社会保障の実施体制及び専門職について理解させる。

[内容]

- 1 現代社会と社会保障
 - 1) 社会保障理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会保障制度の体系
- 3 社会保障を構成する各制度の目的、対象、給付内容及び財源の概要
 - 1) 年金保険
 - 2) 医療保険
 - 3) 労災保険
 - 4) 失業保険（雇用保険）
 - 5) 家族手当（児童手当）
 - 6) 公的扶助
 - 7) その他関連制度
- 4 我が国の年金保険制度とその具体的内容
 - 1) 国民年金
 - 2) 厚生年金
 - 3) 各種共済組合の年金
 - 4) 障害基礎年金
- 5 我が国の医療保険制度とその具体的内容
 - 1) 国民健康保険
 - 2) 健康保険
 - 3) 各種共済組合の医療保険
- 6 我が国の介護保険とその具体的内容
- 7 公的施策と民間保険
 - 1) 公的施策との関係
 - 2) 現状
- 8 社会保障の実施体制及び専門職

「公的扶助論」

[目標]

- 1 現代社会における公的扶助の理念と意義について理解させる。
- 2 生活保護のしくみと近年の動向について理解させる。
- 3 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方について理解させる。

[内容]

- 1 現代社会と公的扶助
 - 1) 公的扶助理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 低所得問題対策の概要
- 3 生活保護制度のしくみ
 - 1) 目的
 - 2) 基本原理
 - 3) 保護の原則
 - 4) 保護の種類と内容
 - 5) 保護の機関と実施体制及び財源
 - 6) 保護施設の種類
 - 7) 被保護者の権利及び義務
- 4 生活保護の最近の動向
- 5 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方

「地域福祉論」

[目標]

- 1 地域福祉の理念と内容について理解させる。
- 2 地域福祉の推進方法について理解させる。
- 3 地域福祉の現状について理解させる。

[内容]

- 1 現代社会におけるコミュニティと地域福祉
- 2 現代社会と地域福祉
 - 1) 地域福祉理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 3 地域福祉の構成
- 4 地域福祉の推進方法
 - 1) 推進の基本的な考え方
 - 2) 公私関係及び役割分担
 - 3) サービス提供組織とその運営方法
 - 4) マンパワーの構成及びその動員方法
 - 5) 財源の構成とその調達の方法
 - 6) 地域福祉推進の具体的な組織、団体、専門職及びその連携のあり方
- 5 地域福祉の現状

「精神保健福祉援助技術総論」

[目的]

- 1 精神障害者を中心とした社会福祉サービスと援助活動について理解させる。
- 2 精神障害者を中心とした社会福祉援助活動の目的・価値等を具体的事例に基づいて理解させる。
- 3 社会福祉援助活動における専門的援助技術の体系について理解させる。
- 4 精神保健福祉士と専門的援助技術について理解させる。

[内容]

- 1 精神障害者を中心とした社会福祉サービスと援助活動
 - 1) 援助の適用と対象
 - 2) 社会福祉サービスと援助活動
- 2 精神障害者を中心とした社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題
 - 1) 社会福祉援助活動の目的と価値
 - 2) 社会福祉援助活動の原則
 - 3) 社会福祉援助活動の方法と過程
 - ①医学モデル
 - ②生活モデル
 - 4) 社会福祉援助活動の共通課題
 - ①契約・介入・課題の意義と方法
 - ②面接の意義と方法
 - ③記録の意義と方法
 - ④評価の意義と方法
 - ⑤スーパービジョンの意義と方法
 - ⑥自助グループ及びボランティアとの協力
 - ⑦ケアマネジメントの意義と方法
- 3 専門的援助技術の体系
 - 1) 直接援助技術の内容と機能
 - ①個別援助技術（ケースワーク）
 - ②集団援助技術（グループワーク）
 - 2) 間接援助技術の内容と機能
 - ①地域援助技術（コミュニティーワーク）
 - ②社会福祉調査法（ソーシャルワーク・リサーチ）
 - ③社会福祉運営管理（ソーシャル・アドミニストレーション）
 - ④社会計画（ソーシャル・プランニング）
 - ⑤その他（ソーシャル・アクション、患者権利擁護、エンパワーメント）
- 4 精神保健福祉士と専門的援助技術
 - 1) チームアプローチと専門的援助技術
 - 2) 生活支援と専門的援助技術

「精神保健福祉援助技術各論」

[目標]

- 1 精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術（ケースワーク）について具体的事例に基づき理解させる。
- 2 精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術（グループワーク）について具体的事例に基づき理解させる。
- 3 精神障害者ケアマネジメントについて具体的事例に基づき理解させる。
- 4 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）について具体的事例に基づき理解させる。
- 5 精神障害者を対象とした援助技術について具体的事例に基づき理解させる。

[内容]

- 1 精神障害者を対象とした個別援助技術（ケースワーク）
 - 1) 疾病及び障害に配慮した個別援助技術
 - 2) 個別援助技術の実際と適用分野
 - 3) 個別援助技術におけるスーパービジョン
 - 4) 具体的事例検討
- 2 精神障害者を対象とした集団援助技術（グループワーク）
 - 1) 疾病及び障害に配慮した集団援助技術
 - 2) 集団援助技術の実際と適用分野（生活技能訓練を含む）
 - 3) 集団援助技術におけるスーパービジョン
 - 4) 具体的事例検討
- 3 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）
 - 1) 地域援助技術の概念と基本的性格
 - 2) 地域援助技術の具体的展開
 - ① ノーマライゼーションの推進と住民参加
 - ② 社会資源の活用と開発
 - ③ 地域社会における連携と調整機能
 - ④ 家族会、自助グループの支援
 - ⑤ ボランティア等地域マンパワーの育成と活用
 - ⑥ 地域援助
 - 3) 具体的事例検討
- 4 精神障害者のケアマネジメント
 - 1) ケアマネジメントの原則
 - ① ケアマネジメント
 - ② 適用と対象
 - ③ 人権への配慮
 - 2) ケアマネジメントの意義と留意点
 - ① ケアマネジメントの意義と留意点
 - ② 関係機関との連携
 - 3) ケアマネジメントのプロセス
 - ① 受理面接（インテーク）
 - ② ニーズの把握とその評価
 - ③ 目標設定と計画的実施
 - ④ 包括的サービスの実現
 - 4) チームケアとチームワーク
 - 5) 具体的事例検討
- 5 精神障害者援助と関連専門職種との連携

- 1) チーム医療における精神保健福祉士との役割
- 2) 専門職等の役割と機能
- 3) チームアプローチ及び生活支援の理念と精神保健福祉士の役割
- 4) 協力・連携による包括的保健・医療・福祉サービス

「精神保健福祉援助演習」

[目標]

- 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

[内容]

精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法が学生個々人に身につくよう、精神障害者の社会復帰に対する援助事例を取り上げるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導の下で、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で事例研究およびロールプレイ等を行う。その際、次の点に留意すること。

- 1 実習前においては、少なくとも精神科病院等保健・医療施設及び障害者自立支援法に規定する障害福祉サービスを行う施設等福祉施設における精神障害者援助技術のモデル的な事例を取り上げ、講義の内容を深め、実習の教育効果が上がるようにする。
- 2 演習を通して援助関係の実際及びチーム医療の実践を身につけるようにする。
- 3 実技指導等
 - 1) 面接実技指導
 - 2) 記録実技指導
 - 3) 集団実技指導
 - 4) 評価・効果測定実技指導
- 4 精神保健福祉士としての、職業倫理についての理解を身につけるようにする。
- 5 実習後においては、実習総括をふまえて、精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法をより深めて身につけさせるようにする。

「精神保健福祉援助実習」

[目標]

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようになる。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

[内容]

精神科病院等保健・医療施設及び障害者自立支援法に規定する障害福祉サービスを行う施設等福祉施設における精神障害者援助実習には、精神障害者のプライバシーに十分配慮しつつ、下記の内容を必ず含めることとする。但し、4は必要に応じ行うこととする。

- 1 実習オリエンテーション
- 2 視聴覚学習
- 3 現場体験学習
- 4 見学実習（急性期病棟など）
- 5 専門援助技術実習指導
- 6 リハビリテーション実習指導
- 7 配属実習
- 8 全体総括

「医学一般」

[目標]

- 1 人体の基本的な構造や機能について理解させる。
- 2 臨床医学の各分野の概要について理解させる。
- 3 医学的リハビリテーションの概要について理解させる。
- 4 現代社会の代表的な疾患について理解させる。
- 5 公衆衛生の概要を理解させる。
- 6 保健医療対策の概要を理解させる。
- 7 医事法制と保健・医療機関及び専門職について理解させる。

[内容]

- 1 人体の構造・機能
- 2 一般臨床医学（内科学、外科学、整形外科学、精神・神経科学等）の概要
- 3 医学的リハビリテーションの概要
- 4 現代社会と疾病
 - 1) がん、成人病
 - 2) 各種感染症
 - 3) エイズ
 - 4) 精神・神経疾患
 - 5) 先天性疾患
 - 6) 難病
- 5 公衆衛生の現状
 - 1) 人口動態
 - 2) 疾病と受療状況
 - 3) 医療関係者
 - 4) 医療施設
- 6 保健医療対策の現状
- 7 医事法制と保健・医療機関及び専門職
 - 1) 医療法、医師法、保健師助産師看護師法等、医事法制の概要
 - 2) 保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方

「心 理 学」

[目標]

- 1 心理学の概要を理解させる。
- 2 乳幼児期・児童期・青年期・老年期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解させる。
- 3 心理学理論による人間理解とその技法の基礎について理解させる。
- 4 心理学的援助技法の概要について理解させる。

[内容]

- 1 人間の心理学的理解
 - 1) 欲求・動機づけと行動
 - 2) 感情・情動
 - 3) 感覚・知覚・認知
 - 4) 学習・記憶・思考
 - 5) 知能・創造性
 - 6) 人格
 - 7) 適応と適応異常
- 2 人間の成長・発達と心理
- 3 人間理解のための心理学理論と技法
 - 1) 基礎理論
 - ①精神分析
 - ②行動分析
 - 2) 測定と診断
 - ①発達
 - ②知能
 - ③性格
- 4 心理学的援助技法の概要
 - 1) 心理療法（個別面接法・集団面接法）
 - 2) 家族心理療法
 - 3) 行動療法

「社会学」

[目標]

- 1 現代社会の特質について理解させる。
- 2 現代社会における家族や地域社会の特徴について理解させる。
- 3 現代社会における社会問題について理解させる。

[内容]

- 1 経済社会の変化と国民の生活及び意識の変化
- 2 現代社会と科学技術
 - 1) 科学技術の展開
 - 2) 現代社会と科学技術
 - 3) 情報化社会と国民生活
- 3 現代社会と専門職
- 4 現代社会における家族
 - 1) 構造及び形態
 - 2) 機能
 - 3) 変化
 - 4) 家族と地域社会
- 5 現代社会における地域社会
 - 1) 都市化と地域社会
 - 2) 過疎化と地域社会
 - 3) 地域社会の社会集団・組織
- 6 現代社会における社会問題

「法 学」

[目標]

- 1 社会生活における法の作用や役割について理解させる。
- 2 憲法、民法及び行政法の基礎を理解させる。

[内容]

- 1 社会生活と法
- 2 憲法
 - 1) 基本原理
 - 2) 基本的人権
 - 3) 地方自治
- 3 民法
 - 1) 総則
 - 2) 物権
 - 3) 契約
 - 4) 不法行為
 - 5) 親族
 - 6) 相続
- 4 行政法
 - 1) 行政行為
 - 2) 行政不服審査
 - 3) 行政訴訟
 - 4) 行政手続き
 - 5) 地方行政組織

第1回 精神保健福祉士の養成の在り方等に関する検討会

平成19年12月19日

参考資料2

精神保健福祉士国家試験 出題基準・合格基準

精神保健福祉士国家試験出題基準

1 出題基準の基本的性格

出題基準は、試験委員が試験問題を作成するために用いる基準であることから、次のような基本的性格を有する。

- (1) 出題基準は、あくまでも標準的な出題範囲の例示であって、出題範囲を厳密に限定するものではなく、また、作問方法や表現等を拘束するものではない。
- (2) 出題基準公表後の法改正による制度の重大な変更等、出題基準にない事項であっても、精神保健福祉士として習得すべき事項については、出題することができる。
- (3) 関係学会等で学説として定まっていなかったり、論議が分かれているものについては、その旨を配慮した出題を行う。

2 大・中・小項目の位置付けと関係

- (1) 大項目は、中項目を束ねる見出しであり、科目全体の範囲を示すとともに、出題の理念を示すものである。
- (2) 中項目は、試験の出題内容となる事項であり、試験問題は、この範囲から出題されることとなる。なお、中項目は、出題基準として、試験問題の出題範囲という観点から配列されているため、学問的な分類体系とは必ずしも一致しない。
- (3) 小項目は、中項目に関する事項をわかり易くするために例示した事項である。
- (4) 出題は、この出題基準に盛り込まれた事項に限定されるものではなく、法律、政省令等に規定されている事項、厚生労働白書などの広報を目的とした公刊物に記載されている事項などからも出題される。

3 試験科目別出題基準

試験科目別出題基準は、「別添」のとおりである。

精神医学

大項目	中項目	小項目
1 精神医学、精神医療の歴史と現状	1) 精神医学、精神医療の歴史と現状	①我が国及び国際的な動向
2 脳及び神経の生理・解剖	1) 脳及び神経の生理・解剖	
3 精神医学の概念	1) 精神医学の概念 2) 精神障害の成因と分類	
4 診断法	1) 診断の手順と方法 2) 精神症状と状態像 3) 心理検査と身体的検査	
5 代表的な精神障害	1) 症状性を含む器質性精神障害	①アルツハイマー型認知症 ②ピック病 ③脳血管性認知症
	2) 精神作用物質使用による精神及び行動の障害	①アルコール依存症 ②覚醒剤依存症 ③大麻依存症 ④コカイン依存症
	3) 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	①統合失調症 ②パラノイア
	4) 気分(感情)障害(躁うつ病)	①うつ病性障害 ②躁病性障害
	5) 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	①不安障害 ②強迫性障害 ③解離性(転換性)障害 ④外傷後ストレス障害 ⑤適応障害
	6) 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	①摂食障害 ②睡眠障害 ③心身症
	7) 成人の人格及び行動の障害	①人格障害
	8) 知的障害	
	9) 心理的発達の障害	①特異的発達障害 ②広汎性発達障害
	10) 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	①多動性障害 ②行為障害 ③チック障害
	11) 神経疾患	①てんかん ②ハンチントン舞踏病 ③プリオン病
6 治療法	1) 身体的療法	①インフォームドコンセント ②薬物療法 ③電気けいれん療法
	2) 精神療法	
	3) 環境・社会療法	
	4) 精神科リハビリテーション	

7 病院精神医療及び地域精神医療	1) 病院精神医療	①精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法) ②入院患者の人権
	2) 精神科救急医療	①救急システム ②移送システム
	3) 地域精神医療	

精神保健学

大項目	中項目	小項目
1 精神保健についての基本知識	1) 精神保健の概要	①精神保健に関する基本的概念 ②精神保健に関する予防の概念
	2) 精神保健の意義と課題	①アメリカにおける精神保健 ②我が国における精神保健
2 ライフサイクルにおける精神保健	1) 胎児期及び乳幼児期における精神保健	①胎児期、乳幼児期の精神発達の特徴 ②育児困難と精神保健上の問題
	2) 学童期における精神保健	①学童期の精神発達の特徴 ②学校不適応、いじめと精神保健上の問題
	3) 思春期における精神保健	①思春期の精神発達の特徴 ②思春期問題行動と精神保健上の問題
	4) 青年期における精神保健	①青年期の精神発達の特徴 ②アイデンティティの危機と精神保健上の問題
	5) 成人期における精神保健	①成人期の一般的精神状態の特徴 ②中年危機と精神保健上の問題
	6) 老年期における精神保健	①脳の老化と精神の老化の特徴 ②老年精神障害、自殺予防と精神保健上の問題
3 精神保健における個別課題への取り組み	1) 精神障害者対策	①精神医療対策の変遷 ②社会復帰対策、福祉対策の展開
	2) 老人性認知症疾患対策	①知識の普及、相談活動及び早期発見、早期対応と予防 ②介護及び在宅ケアシステムと権利擁護システム
	3) アルコール関連問題対策	①アルコール関連身体症状及び精神症状の理解とアルコール依存症の理解 ②アルコール症の治療とアルコール依存症の地域ケア
	4) 薬物乱用防止対策	①薬物乱用の現状と依存性薬物の特性の理解 ②薬物乱用の治療と自助グループ育成及び地域ケアの重要性
	5) 思春期精神保健対策	①不登校、いじめ、性非行等の個別的な現状と背景 ②思春期問題に対応するためのシステムづくり

	6) 地域精神保健対策	①精神障害に関する正しい理解 ②地域ケアシステムの構築 ③地域住民の精神的健康を高めるための方法論とその活動
	7) ターミナルケアと精神保健	①QOL(生活の質) ②末期患者の症状 ③自己決定権に関する認識と病名告知 ④チーム医療の重要性
4 精神保健活動の実際	1) 家族における精神保健	①少子高齢社会 ②育児支援の充実 ③学校精神保健との連携 ④職場の精神保健との連携
	2) 学校における精神保健	①学校精神保健における課題 ②学校保健と子育てに関連する地域保健との連携
	3) 職場における精神保健	①労働安全衛生法 ②ストレス対策の充実 ③地域精神保健との連携
	4) 地域における精神保健	①地域保健活動の一環としての地域精神保健活動 ②精神障害者の地域ケアの推進と地域住民の精神的健康の増進
5 地域精神保健と地域保健	1) 地域精神保健施策の概要	①地域保健における目標、目的、方法の変遷 ②総合的な地域保健計画の充実と地域精神保健活動の関係
	2) 地域保健施策の概要	①母子保健法、地域保健法、精神保健福祉法の相互関連 ②精神保健福祉施策
	3) 関連法規	①障害者基本法、障害者自立支援法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、障害者雇用促進法、児童福祉法 ②教育基本法、学校教育法、学校保健法、労働基準法、労働安全衛生法
	4) 関連施策	
6 諸外国における精神保健	1) 世界的に見た精神障害と精神医療サービスの現状	
	2) 精神保健の世界的な流れ	

精神科リハビリテーション学

大項目	中項目	小項目
1 精神科リハビリテーションの概念	1) リハビリテーションの概念と歴史	① リハビリテーションの歴史 ② 障害の種類と国際分類
	2) リハビリテーションの理念、意義と基本原則	① リハビリテーションの理念と意義 ② リハビリテーションの基本原則
	3) 精神科リハビリテーションの概念	① 精神障害の現れ方とリハビリテーションのあり方 ② 精神科リハビリテーションの構成
	4) 精神科リハビリテーションの理念と意義	① 精神科リハビリテーションと人権
	5) 精神科リハビリテーションの基本原則と技法	① 当事者参加と主体性の回復及び個別性の重視 ② 生活環境への適応重視と再発防止の視点
	6) 我が国及び諸外国の精神科リハビリテーションの現状	① 我が国の精神科リハビリテーションの現状 ② 諸外国における精神科リハビリテーションの現状
2 精神科リハビリテーションの構成	1) 精神科リハビリテーションの対象	① 障害と障害者の定義及び国際障害分類の変遷 ② 我が国の精神障害の定義と障害に関する基本的アプローチ
	2) 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割	① 精神保健福祉士の業務内容 ② 精神保健福祉士の専門性と役割
	3) 精神科リハビリテーションに関わる専門職との連携	① 精神保健福祉関連の専門職(職名、養成課程、業務範囲) ② 専門職間の連携(連携のあり方、連携の方法、チーム構成)
	4) 精神科リハビリテーションの施設	① 病院、リハビリテーション施設 ② 社会復帰施設及びその他の社会資源(グループホーム、小規模作業所) ③ 精神保健福祉センター、保健所 ④ その他の協力機関、支援団体
	5) 精神科リハビリテーションの関連領域	① 知的障害者及び高齢者の入所、通所施設 ② ハローワーク及び職親

3 精神科リハビリテーションのプロセス	1)リハビリテーション計画	①リハビリテーション計画とアセスメント ②リハビリテーション計画における留意点
	2)アプローチの方法	①病院におけるリハビリテーション ②社会復帰施設及びその他の社会資源におけるリハビリテーション
	3)疾患の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション	①疾病の側面及び生活の側面 ②年代ごとの生活課題とリハビリテーション
4 医療機関におけるリハビリテーション	1)作業療法及びレクリエーション療法	
	2)集団精神療法	
	3)行動療法	
	4)認知行動療法	①SST(生活技能訓練)
	5)家族教育プログラム	①心理教育
	6)デイケア及びナイトケア	
	7)精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導	
5 精神保健福祉士が行うリハビリテーション	1)精神保健福祉士が関わる医学的リハビリテーション	①集団精神療法における精神保健福祉士 ②SST(生活技能訓練)における精神保健福祉士 ③デイケア及びナイトケアにおける精神保健福祉士 ④訪問看護・指導における精神保健福祉士
	2)社会的リハビリテーション	①日常生活への適応のための訓練 ②社会復帰のための相談・助言・指導
6 精神科リハビリテーションの総合化	1)地域リハビリテーション	①地域ネットワーク ②ケアマネジメント ③地域生活支援センターと訪問援助 ④家族会、セルフヘルプグループ ⑤ボランティアの育成と活用
	2)職業リハビリテーション	①就労援助活動の進め方 ②職業リハビリテーションサービス
	3)精神保健福祉施策と精神科リハビリテーション	①精神保健福祉法と精神科リハビリテーション施策の推進 ②障害者基本法、障害者プラン、障害者自立支援法と精神科リハビリテーション

精神保健福祉論

大項目	中項目	小項目
1 障害者福祉の理念と意義	1) 障害者福祉の理念	①障害者福祉の発達 ②ノーマライゼーション ③リハビリテーション ④QOL(生活の質) ⑤生活支援 ⑥自立と社会参加
	2) 障害及び障害者	①障害の概念 ②障害分類 ③精神障害の特性
	3) 障害者福祉の基本施策	①障害者基本法 ②障害者プラン
	4) 現代社会と精神障害者	①精神障害者の概念 ②精神障害者と家族 ③精神障害者と地域社会 ④精神障害者のノーマライゼーション
2 精神障害者の人権	1) 精神障害者の権利擁護	
	2) 精神医療における権利擁護	①精神医療審査会
	3) インフォームドコンセント	
	4) 地域社会における精神障害者の人権	
3 精神保健福祉士の理念と意義	1) 精神保健福祉の歴史と理念	
	2) 精神保健福祉士の意義	
	3) 精神保健福祉士の対象	
	4) 精神保健福祉士の専門性と倫理	
4 精神障害者に対する相談援助活動	1) 精神障害者を取りまく社会的障壁	
	2) 精神障害者の主体性の尊重	
	3) 相談援助活動の方法	①医療施設における相談援助活動 ②社会復帰施設等における相談援助活動 ③地域社会における相談援助活動
	4) 相談援助活動の事例	
5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律	1) 精神保健福祉法の意義と内容	
	2) 精神保健福祉士法の意義と内容	
	3) 関連法	①障害者自立支援法、医療観察法
6 精神保健福祉施策の概要	1) 精神保健福祉に関する行政組織	

	2)精神保健福祉に係る公費負担制度	①公費負担医療
	3)精神保健福祉施策の課題	①精神障害者保健福祉対策 ②社会復帰対策
	4)精神保健福祉における社会資源	①精神障害者保健福祉に関わる専門職との連携 ②社会資源
7 精神保健福祉の関連施策	1)雇用・就労	①障害者雇用促進法 ②ジョブガイダンス
	2)所得保障	
	3)経済負担の軽減	
	4)生活環境の改善	

精神保健福祉援助技術

大項目	中項目	小項目
1 精神障害者を中心とした社会福祉サービスと援助活動	1) 援助の適用と対象	①精神保健福祉法の理解と運用
	2) 社会福祉サービスと援助活動	社会資源活用の援助活動
2 精神障害者を中心とした社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び方法等に関する共通課題	1) 社会福祉援助活動の目的と価値及び倫理	①権利擁護 ②職業倫理
	2) 社会福祉援助活動の原則	①自己決定 ②秘密保持
	3) 社会福祉援助活動の方法と過程	①医学モデルと生活モデル ②エンパワメント
	4) 社会福祉援助活動の共通課題	①契約・介入の意義と方法 ②面接の意義と方法 ③記録の意義と方法 ④評価の意義と方法 ⑤スーパービジョンの意義と方法 ⑥セルフヘルプグループ及びボランティア活動の意義と支援方法 ⑦ケアマネジメントの意義と方法 ⑧ネットワークの意義と方法 ⑨就労支援の意義と方法
3 専門的援助技術の体系	1) 直接援助技術の内容と機能	①個別援助技術 ②集団援助技術
	2) 間接援助技術の内容と機能	①地域援助技術 ②社会福祉調査法 ③社会福祉運営管理 ④社会福祉計画 ⑤その他(ソーシャル・アクション、ネットワーク)
4 精神保健福祉士と専門的援助技術	1) チームアプローチと専門的援助技術	①精神保健福祉士の役割と機能
	2) 社会資源活用の専門的援助技術	
	3) ライフサイクルに伴う精神保健福祉問題への専門的援助技術	
	4) 生活支援と専門的援助技術	
	5) 就労支援の専門的援助技術	
5 精神障害者を対象とした個別援助技術(ケースワーク)	1) 疾病及び障害に配慮した個別援助技術	①危機介入の援助技術 ②生活支援の援助技術
	2) 個別援助技術の実際と適用分野	
	3) 個別援助技術におけるスーパービジョン	
	4) 具体的事例検討	

6 精神障害者を対象とした集団援助技術(グループワーク)	1) 疾病及び障害に配慮した集団援助技術	
	2) 集団援助技術の実際と適用分野	①デイケアとグループワーク ②SST(生活技能訓練)
	3) 集団援助技術におけるスーパービジョン	
	4) 具体的事例検討	
7 精神障害者を対象とした地域援助技術(コミュニティワーク)	1) 地域援助技術の概念と基本的性格	
	2) 地域援助技術の具体的展開	①ノーマライゼーションの推進と住民参加 ②社会資源の活用と開発 ③地域社会における連携と調整機能 ④家族会、自助グループの支援 ⑤ボランティア等地域マンパワーの育成と活用 ⑥地域生活支援活動 ⑦雇用・就労支援活動
	3) 具体的事例検討	
8 精神障害者のケアマネジメント	1) ケアマネジメントの原則	①適用と対象 ②人権への配慮
	2) ケアマネジメントの意義と方法	①ケアマネジメントの意義と方法 ②関係機関との連携
	3) ケアマネジメントのプロセス	①インテーク ②ニーズの把握とその評価 ③目標設定と計画的実施 ④包括的サービスの実現 ⑤評価
	4) チームケアとチームワーク	
	5) 具体的事例検討	
9 精神障害者援助と関連専門職との連携	1) チーム医療における精神保健福祉士の役割と機能	
	2) 専門職等の役割と機能	
	3) チームアプローチ及び生活支援の理念と精神保健福祉士の役割と機能	
	4) 協力・連携による包括的保健・医療・福祉サービスの活用	
	5) 具体的事例検討	

社会福祉原論

大項目	中項目	小項目
1 現代社会と社会福祉	1) 社会福祉の理念	①人権尊重 ②権利擁護 ③自立支援
	2) 社会福祉の発達	①日本の社会福祉発達史 ②諸外国の社会福祉発達史
	3) 概念と範囲	①日本国憲法 ②社会福祉法 ③社会保障制度審議会
	4) 役割と意義	①保護・救済 ②援助・支援 ③自助・互助・公助
2 社会福祉の対象の把握方法	1) 対象	①政策 ②制度
	2) 視点	
	3) 方法	①実践 ②制度
3 社会福祉援助の具体的な形態と方法	1) 社会福祉援助の活動領域	
	2) 社会福祉援助の方法	①現金給付 ②現物給付 ③対人サービス
4 社会福祉援助活動における専門性と倫理	1) 専門性	①知識基盤 ②価値基盤 ③技能基盤
	2) 専門職	
	3) 専門資格	
	4) 他の関連専門職との連携のあり方	
	5) 社会福祉援助活動と倫理	①倫理要領
5 社会福祉専門職と資格制度	1) ソーシャルワーカー	
	2) 社会福祉士	①国家資格 ②業務独占と名称独占 ③各法の内容 ④業務と義務
	3) 精神保健福祉士	①国家資格 ②業務独占と名称独占 ③各法の内容 ④業務と義務
	4) 介護福祉士	①国家資格 ②業務独占と名称独占 ③各法の内容 ④業務と義務
	5) その他の福祉専門職	
6 社会福祉関係法制と実施体制及び財政の概要	1) 社会福祉法	
	2) 福祉六法及び関連法規の内容及び相互関係	①法律の性格と法制の体系 ②各法の内容と関係

	3) 社会福祉の実施体制	①福祉事務所 ②各種相談所 ③民生委員
	4) 社会福祉の財政と費用負担	①受益者負担 ②応益負担・応能負担
7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向	1) 我が国の動向	①社会福祉基礎構造改革 ②措置と契約 ③女性福祉(婦人保護事業、DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)) ④福祉文化
	2) 海外の動向	①グローバル化 ②国際福祉

社会保障論

大項目	中項目	小項目
1 現代社会と社会保障	1) 社会保障理念の発達	①福祉国家 ②ベヴァリッジ報告
	2) 社会保障の歴史	①日本の社会保障史 ②諸外国の社会保障史
	3) 社会保障の国際動向	
	4) 概念と範囲	①社会保障制度審議会答申
	5) 役割と意義	
2 社会保障制度の体系	1) 社会保障制度の機能と体系	①社会保障の機能と構造 ②社会保障制度の体系
3 社会保障を構成する各制度の目的、対象、給付内容及び財源の概要	1) 年金	①老齢年金、障害年金、遺族年金
	2) 医療保障	①現物給付と現金給付
	3) 介護保険	
	4) 労働者災害補償制度	
	5) 雇用保険	
	6) 社会(家族)手当	①児童手当
	7) 公的扶助(生活保護)	
	8) 社会福祉	
	9) その他関連制度	
4 我が国の年金制度とその具体的内容	1) 国民年金	①基礎年金
	2) 厚生年金保険	
	3) 各種共済組合の年金	
	4) その他の年金制度	①確定拠出年金 ②年金基金 ③船員保険
5 我が国の医療保障制度とその内容	1) 国民健康保険	
	2) 健康保険	
	3) 各種共済組合の医療保険	
	4) 老人保健	
	5) その他の医療保障制度	①船員保険 ②公費負担医療
6 我が国の介護保障制度とその具体的内容	1) 介護保険	
7 我が国の労働保険制度とその具体的内容	1) 労災保険	
	2) 雇用保険	
8 公的施策と民間保険	1) 公的施策と民間保険との関係	
	2) 民間保険の現状	
9 社会保障の実施体制及び専門職	1) 社会保障の実施体制	①社会保険事務所 ②公共職業安定所 ③労働基準監督署
	2) 権利救済制度	
	3) 専門職	①社会保険労務士
10 我が国の社会保障の課題と動向	1) 社会保障の課題	
	2) 政策動向	

公的扶助論

大項目	中項目	小項目
1 現代社会と公的扶助	1) 公的扶助理念の発達	①ナショナルミニマム ②生存権
	2) 公的扶助制度の沿革	①日本における公的扶助の沿革 ②諸外国における公的扶助の沿革
	3) 概念と範囲	
	4) 役割と意義	
2 低所得対策の概要	1) 生活福祉資金	
	2) 社会手当制度	①児童手当 ②児童扶養手当 ③特別障害者手当
3 生活保護制度のしくみ	1) 目的	
	2) 基本原理	
	3) 保護の原則	
	4) 保護の種類と内容	
	5) 生活保護基準	
	6) 保護施設の種類	
	7) 生活保護の決定・実施	①資産、所得 ②扶養 ③最低生活費
	8) 保護の実施機関と実施体制及び財源	①実施責任
	9) 被保護者の権利及び義務	①被保護者の権利・義務 ②不服申立制度
	10) 要保護者の相談	
4 生活保護の最近の動向	1) 生活保護統計と財政	
	2) 生活保護の政策動向	
5 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方	1) 組織・専門職	①社会福祉主事 ②補助機関、協力機関 ③民生委員
	2) 連携のあり方	
6 公的扶助における相談援助活動	1) 事例検討	

地域福祉論

大項目	中項目	小項目
1 現代社会におけるコミュニティと地域社会	1) 日本の地域社会	
	2) コミュニティの概念	①ゲゼルシャフト ②ゲマインシャフト ③共同体
2 現代社会と地域福祉	1) 地域福祉理念の発達	①相互扶助 ②コミュニティケア ③福祉のまちづくり ④ノーマライゼーション
	2) 地域福祉の国際動向	①シーボーム報告 ②グリフィス報告
	3) 概念と範囲	
	4) 役割と意義	
3 地域福祉の構成	1) 地域集団	
	2) 当事者集団	
4 地域福祉の推進方法	3) 地域福祉に関する法と制度	①社会福祉法
	1) 推進の基本的考え方	①住民参加 ②住民主体 ③住民自治 ④福祉教育
	2) 地域福祉計画の意義と内容	①地域アセスメント ②計画の内容と策定方法 ③地域福祉活動計画 ④住民(市民)運動 ⑤地域組織化 ⑥福祉組織化
	3) 市町村と社会福祉協議会の役割と住民参加の意義	①社会福祉協議会 ②社会福祉を目的とする事業 ③地域福祉に関する活動
	4) サービス提供組織とその運営方法	①第三セクター ②福祉の多元化
	5) 人材の構成及びその動員方法	①コミュニティワーク ②コミュニティオーガニゼーション ③ネットワーキング
	6) 財源の構成とその調達の方法	①共同募金 ②地域福祉基金
	7) 地域福祉推進の具体的な組織、団体、専門職及びその連携のあり方	①企画指導員 ②福祉活動指導員 ③福祉活動専門員
5 地域福祉の課題と動向	1) 現状と課題	
	2) 政策動向	
6 地域福祉における相談援助活動	1) 事例検討	

心理学

大項目	中項目	小項目
1 人間の心理学的理解	1) 学習・記憶	①学習理論 ②記憶モデル
	2) 感覚・知覚・認知	①認知理論
	3) 感情・情動	①情緒・情動 ②気分 ③情操
	4) 欲求・動機付けと行動	①外発的動機付けと内発的動機付け
	5) 適応・不適応	①適応機制
	6) 知能・創造性	①IQ(知能指数) ②結晶性能力・流動性能力
	7) 性格・人格	①パーソナリティ理論
	8) 個人と集団	①集団力学 ②リーダーシップ理論
2 人間の成長・発達と心理援助	1) 発達のとらえ方と発達理論	①生涯発達の視点と発達理論
	2) 発達段階と発達課題	①アタッチメント ②遊びと発達 ③アイデンティティの形成と再構築
	3) 障害の受容	①障害の受容過程
	4) 障害児者への発達支援・心理援助	①生活障害の理解 ②障害者の心理と支援
	5) 高齢者への発達支援・心理援助	①生活障害の理解 ②高齢者の心理と支援
3 生活の場と心理援助	1) 生活の場・生活環境に対する理解	
	2) 生活の場における人間関係	
	3) 生活の場におけるストレスと行動	①ストレスとストレスター ②ストレスマネジメント
	4) 必要な心理援助の内容	
4 ソーシャルワーカーと心理学	1) ソーシャルワーカーの業務に活かす心理学	
	2) 専門職への理解と連携	
	3) 家族支援の視点と方法	
	4) ソーシャルワーカーの行う心理援助	①カウンセリング ②ピア・カウンセリング ③SST(生活技能訓練)
5 心理検査の考え方と方法	1) 心理検査の考え方	
	2) 心理検査の内容	①人格検査 ②発達検査 ③知能検査 ④適性検査 ⑤その他の検査
6 心理療法の考え方と方法	1) 代表的な心理療法理論	①精神分析
	2) 個別心理療法と集団心理療法	①来談者中心療法 ②家族療法

3)さまざまな心理療法	①ブリーフ・サイコ・セラピー ②動作療法 ③心理劇 ④エンカウンター・グループ ⑤遊戯療法 ⑥行動療法
4)福祉現場におけるセラピューティック・アクティビティ	①音楽療法 ②動物・園芸療法

社会学

大項目	中項目	小項目
1 社会変動と社会意識・生活の変化	1) 社会変動の諸概念の理解	①ゲゼルシャフト ②ゲマインシャフト ③コミュニティ ④アソシエーション ⑤グローバリゼーション ⑥エスニシティ ⑦近代化・産業化 ⑧情報化
	2) 社会意識	①社会的性格 ②大衆社会論 ③権威主義的パーソナリティ
	3) 生活の変化	①人口問題 ②生活構造 ③QOL(生活の質) ④ライフコース ⑤ライフサイクル ⑥生活時間 ⑦ジェンダー ⑧ボランティアリズム
2 現代社会と科学技術	1) 科学技術の展開と社会変動	①現代社会と環境問題(公害、南北問題、エコロジー、持続可能な社会、環境コスト、環境リスク) ②現代社会と情報(脱工業化、第三の波、マスメディア、マスコミュニケーション、パーソナルコミュニケーション、メディアリテラシー)
3 現代社会の組織と専門職	1) 社会変動と社会移動	①社会階層(階級、地位、ホワイトカラー、水平移動、垂直移動、世代間移動、貧困、アンダークラス、SSM調査(社会階層と社会移動全国調査))
	2) 組織とネットワーク	①組織(官僚制、リーダーシップ、ホーソン調査、インフォーマル組織、NPO法人(特定非営利活動法人)) ②職業・労働・専門職集団(産業構造、職業分類、日本的経営、家事労働、女性労働、外国人労働者、準拠集団、倫理)
4 現代社会における家族	1) 家族の構造的特質	①家族の形態(家制度、定位家族、生殖家族、核家族、拡大家族、世帯、離婚、エンブティ・ネスト)

	2) 家族の機能的特質	①個人の社会化(手段的役割、表出的役割、アイデンティティ、社会化、一般化された他者、役割)
5 現代社会における地域社会	1) 社会変動としての都市化と地域社会	①都市化(シカゴ学派、アーバニズム、郊外化、インナーシティ、世界都市) ②過疎化(地域開発、全国総合開発計画) ③地域社会の社会集団・組織(町内会・自治会・ボランティア集団、ネットワークング、コミュニティ)
6 現代社会における社会問題	1) 社会問題の認識	①社会問題の諸概念(規範、ラベリング、ステイグマ、差別、エイジズム、マイノリティ・グループ、フェミニズム、エスノセントリズム、アフターマティブ・アクション) ②社会的逸脱現象 ③社会運動

法学

大項目	中項目	小項目
1 社会生活と法	1) 社会生活と法	
2 憲法	1) 基本原理	①憲法規範の特質(自然権、国家権力の制限、最高法規性) ②立憲主義(法の支配、法治国家、自由国家、社会国家、福祉国家) ③民主主義 ④国民主権
	2) 基本的人権	①人権の観念・基本原理(人権の固有性、人権の不可侵性、人権の普遍性、人間の尊厳の原理) ②自由権(精神的自由権、経済的自由権、人身の自由) ③幸福追求権(プライバシーの権利、自己決定権) ④法の下での平等 ⑤参政権 ⑥社会権(生存権) ⑦基本的人権の限界(公共の福祉、私人間効力) ⑧人身の自由(適正手続)
	3) 財政	①財政民主主義 ②租税法律主義 ③公金支出の禁止
	4) 地方自治	①地方公共団体の機関 ②条例(条例制定権)
3 民法	1) 総則	①成年後見(成年後見人、保佐人、補助人) ②法定代理人 ③未成年者 ④意思表示 ⑤無効・取消 ⑥公益法人 ⑦NPO法人(特定非営利活動法人) ⑧中間法人
	2) 物権	①物権変動の対抗要件

3) 契約	<ul style="list-style-type: none"> ①契約不履行・損害賠償 ②契約の解除 ③贈与 ④委任・準委任 ⑤請負 ⑥消費者契約法 ⑦割賦販売法 ⑧特定商取引に関する法律 ⑨訪問販売・特定継続的役務提供 ⑩クーリングオフ 								
4) 事務管理									
5) 不法行為	<ul style="list-style-type: none"> ①不法行為の一般的要件 ②使用者責任 ③過失相殺 ④消滅時効 								
6) 親族	<ul style="list-style-type: none"> ①親族・血族・姻族 ②婚姻・離婚 ③嫡出子・非嫡出子・認知 ④養子・特別養子 ⑤親権 ⑥後見・保佐・補助 ⑦扶養 								
7) 相続	<ul style="list-style-type: none"> ①相続人 ②法定相続 ③遺産分割 ④遺言 ⑤遺留分 								
4 行政法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td data-bbox="555 1144 1002 1451">1) 行政行為及び行政手続</td> <td data-bbox="1002 1144 1458 1451"> <ul style="list-style-type: none"> ①行政行為(行政行為の概念・意義、行政行為の効力、行政行為の取消・撤回) ②行政手続(処分、申請、不利益処分、行政指導、届出、審査基準・標準処理期間、処分基準、聴聞・弁明の機会の付与) </td> </tr> <tr> <td data-bbox="555 1451 1002 1682">2) 行政不服審査</td> <td data-bbox="1002 1451 1458 1682"> <ul style="list-style-type: none"> ①不服申立て(審査請求、再審査請求、異議申立て、審査請求期間・再審査請求期間、異議申立て期間、処分庁・上級行政庁・審査庁、裁決の効力) </td> </tr> <tr> <td data-bbox="555 1682 1002 1912">3) 行政訴訟</td> <td data-bbox="1002 1682 1458 1912"> <ul style="list-style-type: none"> ①抗告訴訟(取消訴訟、原告適格、被告適格、出訴期間、執行停止、裁量処分、取消判決の効力、無効等確認の訴え、不作為の違法確認の訴え) ②当事者訴訟 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="555 1912 1002 2063">4) 国家賠償</td> <td data-bbox="1002 1912 1458 2063"> <ul style="list-style-type: none"> ①公務員 ②公権力の行使 ③公の営造物 ④賠償責任者 </td> </tr> </table>	1) 行政行為及び行政手続	<ul style="list-style-type: none"> ①行政行為(行政行為の概念・意義、行政行為の効力、行政行為の取消・撤回) ②行政手続(処分、申請、不利益処分、行政指導、届出、審査基準・標準処理期間、処分基準、聴聞・弁明の機会の付与) 	2) 行政不服審査	<ul style="list-style-type: none"> ①不服申立て(審査請求、再審査請求、異議申立て、審査請求期間・再審査請求期間、異議申立て期間、処分庁・上級行政庁・審査庁、裁決の効力) 	3) 行政訴訟	<ul style="list-style-type: none"> ①抗告訴訟(取消訴訟、原告適格、被告適格、出訴期間、執行停止、裁量処分、取消判決の効力、無効等確認の訴え、不作為の違法確認の訴え) ②当事者訴訟 	4) 国家賠償	<ul style="list-style-type: none"> ①公務員 ②公権力の行使 ③公の営造物 ④賠償責任者
1) 行政行為及び行政手続	<ul style="list-style-type: none"> ①行政行為(行政行為の概念・意義、行政行為の効力、行政行為の取消・撤回) ②行政手続(処分、申請、不利益処分、行政指導、届出、審査基準・標準処理期間、処分基準、聴聞・弁明の機会の付与) 								
2) 行政不服審査	<ul style="list-style-type: none"> ①不服申立て(審査請求、再審査請求、異議申立て、審査請求期間・再審査請求期間、異議申立て期間、処分庁・上級行政庁・審査庁、裁決の効力) 								
3) 行政訴訟	<ul style="list-style-type: none"> ①抗告訴訟(取消訴訟、原告適格、被告適格、出訴期間、執行停止、裁量処分、取消判決の効力、無効等確認の訴え、不作為の違法確認の訴え) ②当事者訴訟 								
4) 国家賠償	<ul style="list-style-type: none"> ①公務員 ②公権力の行使 ③公の営造物 ④賠償責任者 								

5) 情報公開	①行政機関 ②行政文書 ③行政文書の開示 ④不開示情報 ⑤部分開示 ⑥開示請求 ⑦開示決定 ⑧情報公開審査会
6) 地方行政組織	①自治事務 ②法定受託事務 ③執行機関

医学一般

大項目	中項目	小項目
1 人体の構造・機能	1) 人体全体の構造と機能	①人体部位名称(頭部、頸部、胸部、背部、腹部、四肢、体幹、脊柱、血管)
	2) 各器官と機能	①器官系列別に見た構造と機能(循環器系、呼吸器系)
	3) 成長と老化	①身体・精神の成長、成熟、老化
2 一般臨床医学の概要	1) 現代医学までの流れと発展	①現代医学とは(医療の対象の変化、遺伝子治療、再生の医学) ②診断技術と治療技術の発展 ③診療科の設置・標榜科
	2) 医療の現状	①医療の理念 ②救急救命医療 ③QOL(生活の質)の維持 ④終末(期)医療 ⑤リハビリテーション医療 ⑥EBM(根拠に基づく医療)
	3) 医療の仕組み	①2次・3次医療圏 ②かかりつけ医 ③地域医療
	4) 医の倫理	①インフォームドコンセント ②情報開示 ③医療事故
3 リハビリテーション医療の概要	1) リハビリテーション医療の流れ	①リハビリテーションの理念と医療技術の発展 ②包括的(総合的)リハビリテーション ③他分野との連携
	2) リハビリテーション医療の対象	①障害の評価と診断 ②治療計画 ③リハビリテーションの実施 ④リハビリテーション関連職種との連携 ⑤二次的障害の予防 ⑥急性期リハビリテーション ⑦回復期リハビリテーション ⑧維持期リハビリテーション ⑨地域リハビリテーション
4 現代社会と疾病	1) 先天性疾患	①先天性疾患とその原因
	2) 生活習慣病	①生活習慣病の意味と種類
	3) がん	
	4) 高齢者と疾患	①老化現象 ②高齢者の疾患の特徴 ③罹患しやすい疾患(脳血管障害、老人性認知症、パーキンソン病、白内障、難聴、骨粗鬆症、嚥下障害)

	5) 感染症	①感染症の定義 ②感染症の種類と原因 ③感染予防 ④感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律
	6) 神経・精神疾患	①神経疾患の定義と種類 ②精神疾患の定義と種類
	7) 難病	①難病の定義と種類 ②介護保険の特定疾病
	8) その他障害に関係の深い疾患群	①脳性麻痺 ②脊髄損傷 ③変形性関節症 ④骨折 ⑤関節リウマチ ⑥ポリオ
5 公衆衛生の現状	1) 人口動態	
	2) 疾病と受療状況	
	3) 医療関係者	
	4) 医療施設	
6 保健医療対策の現状	1) 保健医療対策の現状	
7 医事法制と保健・医療機関及び専門職	1) 医事法制の概要	①医療法 ②医師法 ③保健師助産師看護師法 ④その他の医療関係法
	2) 保健・医療機関及び他の専門職と福祉専門職の連携のあり方	

精神保健福祉士国家試験合格基準

次の2つの条件を満たした者を合格者とする。

- 1 問題の総得点の60%程度を基準として、問題の難易度で補正した点数以上の得点の者。
- 2 1を満たした者のうち、試験科目(ただし、精神保健福祉援助技術については、「一問一答問題」と「事例問題」をそれぞれ別個の試験科目とみなす。)14科目(ただし、(注)2に該当する者にあつては、6科目。)の各科目すべてにおいて得点があった者。

(注) 1 配点は、1問1点の160点満点である。

2 精神保健福祉士法施行規則第6条の規定による試験科目の一部免除を受けた受験者にあつては、配点は、1問1点の80点満点である。

